



「めっせ一字」(2.18)

文字職人 杉浦誠司氏による 6 年生への出前授業を行いました。授業の要約を紹介します。

○小学校時代のいじめ

- ・転校生で、はじめのころ級友は「自分の取り合い」をしていたが、いつの間にか仲間はずれにされた。声をかけても無視されるなど。2 年間 1 人ぼっちの状態。
- ・母を心配させたくない、でも母はすごく心配している。だから、1 つのことを決めた。それは笑うこと。一人でも笑う。「笑う門には福来たる」という。
- ・しかし、いじめはエスカレート。
- ・「もう一日だけ笑ってみよう」と思った日、一人の級友が「一緒に帰ろう」と声をかけてくれた。でも、自分は断った。(それによってその子がいじめられるかもしれない)
- ・その子は、それでも一緒に帰ってくれた。
- ・次の日、「見てたぞ」という声。(また、いじめられる、その子もいじめられる)ところが、一緒に帰る仲間が増えていった。そして、これまでいじめの中心であった子が一人になった。
- ・それでも、彼を遊びに誘った。(彼も苦しかったのだろう)
- ・いじめをして幸せになった子はいらるだろうか？

○自分の夢

- ・自分は警察官の家庭に育ったので、警察官になることが当然だと思っていた。実際に大学の法学部へ進み警察官になった。(1 年でやめてしまった)それは夢が叶ったと思えない。
- ・みなさんに夢はあるか？ 次の 4 つをイメージしてほしい。
 - ①これをやっているときが楽しい
 - ②笑顔であってほしい人はどんな人？
 - ③どんなことに困っている人を助けたいか？
 - ④どんな世界がおもしろいか？
- ・このイメージの世界が夢。職業だけではない。何かをしたい、何かを伝えたいと思うこと。それが「夢を追う」こと。
- ・警察官をやめたことで家族からいろいろ言われた。だから挑戦する姿を見せることにした。
- ・家電販売の会社に勤めた。家電について知識も経験もないが、どんどん売れた。買ってくれたお客様から紹介されたお客様もたくさんいた。心がけたことは「笑顔であいさつ」
- ・その他に塾の先生もやった。
- ・いずれもうまくいっているのにやめてしまった。それは「何のために」がはっきりしていなかった。
- ・今、いじめをなくそうと、全国を回ってお話をさせていただいている。自分に近いある人から、「そんなことをしても、いじめは絶対なくなる」と言われた。でも、お話の後に送られてきた感想を読んだその人は「いじめはなくなるかもしれない」と言うようになった。
- ・本気でやりたいことをやれば仲間が集まる。一人では無理なことでもみんなが立ち上がれば、やが



てできるようになるのではないか。

- ・（夢について）今、すべての答えを出す必要はない。
- ・（夢について）心の火を消すのは自分自身（人のせいにはしない）

（杉浦氏は、話の後、黙想で気持ちを集中させ、次のような文字と言葉を力強く書き上げた。）

人生（えがお）

自分が笑顔でいることは
あなただけでなく
周りの人の幸せに
つながること忘れないで
自分の心に素直に
生きれば 必ず幸せ



【「人生」という文字、よく見ると・・・】

（最後に、このように付け足した）

- ・ノミは 20 cm くらい跳ぶが、高さ 10 cm の箱に入れておくと、箱から出しても 10 cm しか跳べない。それを元に戻すには、・・・・・・隣に 20 cm 跳ぶノミをもってくれば、また跳ぶようになる。つまりできる人のそばに行くこと。自分の師匠を見つけること。

※書いていただいた文字は、校内に掲示する予定です。

【文字職人とは】

平仮名を組み合わせて漢字を作る「めっせ一字」の生みの親。
文字の力で人に笑顔、元気、勇気を与える杉浦誠司の呼称。
いじめ問題の取り組みに力を入れており、小学校・中学校での講演を
年間に 100 回ほど実施。またプロジェクト Y のメンバーでもある。

